

議員全員協議会会議録

平成27年 6 月 3 日

宮 古 市 議 会

平成27年6月宮古市議会議員全員協議会会議録目次

(6月3日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
説明事項(1)	3
説明事項(2)	19
閉 会	20

宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時 平成27年6月3日（水曜日） 午後 1時00分
場 所 議事堂 市役所 6階大ホール

○

事 件

〔説明事項〕

- （１）宮古市中心市街地拠点施設整備事業の推進について
- （２）その他

出席議員（28名）

1番	今村正君	2番	小島直也君
3番	近藤和也君	4番	佐々木清明君
5番	白石雅一君	6番	鳥居晋君
7番	中島清吾君	8番	伊藤清君
9番	内館勝則君	10番	北村進君
11番	佐々木重勝君	12番	須賀原千エ子君
13番	高橋秀正君	14番	橋本久夫君
15番	古館章秀君	16番	工藤小百合君
17番	坂本悦夫君	18番	長門孝則君
19番	佐々木勝君	20番	落合久三君
21番	竹花邦彦君	22番	松本尚美君
23番	坂下正明君	24番	茂市敏之君
25番	藤原光昭君	26番	田中尚君
27番	加藤俊郎君	28番	前川昌登君

欠席議員（なし）

説明のための出席者

説明事項（1）

総務部長	佐藤廣昭君	企画部長	山崎政典君
都市整備部長	高峯聡一郎君	財政課長	菊池廣君
契約検査課長	佐々木勝利君	企画課長	伊藤孝雄君
復興推進課長	多田康君	都市計画課長	中村晃君
建築住宅課長	松下寛君	復興推進課 都市街地施設 推進室長	岩間健君
復興推進課 都市街地施設 推進室主任	竹田真人君	都市計画課 復興拠点 整備室長	佐々木良幸君

議会事務局出席者

事務局長	上居勝弘	次長	佐々木純子
主査	菊地政幸		

開 会

午後 1時00分 開会

○議長（前川昌登君） それでは、ただいまから議員全員協議会を開会します。

ただいままでの出席は28名でございます。会議は成立しております。

それでは、次第に従いまして会議を進めてまいります。

○

説明事項（１） 宮古市中心市街地拠点施設整備事業の推進について

○議長（前川昌登君） 説明事項の（１）、宮古市中心市街地拠点施設整備事業の推進についてを説明願います。

山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 企画部の山崎でございます。

宮古市中心市街地拠点施設整備事業につきましては、今年度は昨年度策定いたしました基本計画をもとに、建物設計の段階に入っております。新年度当初予算では、基本設計業務を先行して行い、概算事業費などを明らかにして、市民の皆様への情報の開示に努め、復興予算の獲得に向けて進めていく予定でございます。

本日は、建物設計や市庁舎跡地の利活用方策などの検討に向けて予定しております市民アンケート調査の実施方法についてご説明いたしますとともに、現段階における委託業務の契約状況についてご報告をさせていただきます。

なお、詳細につきましては、復興推進課長から説明をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 復興推進課の多田でございます。

それでは、私のほうから、宮古市中心市街地拠点施設整備事業の推進についてということで、前回4月以降の進捗についてご説明をいたしたいと思います。

表紙をめくっていただきまして、1ページ目でございます。

1といたしまして、これから実施しようとする市民アンケートの実施方針を挙げているところでございます。

市民アンケートにつきましては、昨年8月に広報折り込みで全戸配布をいたしました。それから、あとは来庁者へのインタビューというような形態で、主に現庁舎の利用実態であるとか満足度、それらについて調査済みであります。そのときは総数で約1,500名程度からの回答を得ているところでございます。以降、計画の進捗に伴いまして、住民説明会であるとか市民検討委員会、市民ワークショップなどを展開してきてございます。今後、基本設計作業に着手をすることから、改めてアンケート調査を実施しようとするものでございます。

（１）には、調査目的を列記してございます。主に事業の認知度や関心度、市民ニーズの把握を目的としてございます。得られたデータについては、今後進行いたします基本設計作業への反映、跡地活用に関する参考資料として活用する予定としているところでございます。

（２）番には、調査方法を記載してございます。①には今回の対象として、18歳以上の市民3,000人を対象することとしてございます。市のアンケートの対応を見ますと、個別郵送アンケートでは約4割程度の返送が期待できるということから、回答数としては約1,200人程度は見込まれようかなというふうに予測をしているところでございます。3,000人の抽出に当たっては無作為と記載ございますけれども、地域に偏重が出ないように、人の目を使いながらチェックをしてまいりたいというふうに考えてございます。

(3) 番には、集計分析方法の例を挙げてございます。単純集計をするほか、クロス集計、それから必要に応じて内容の比較分析等を行いたいというふうに考えてございます。

(4) 番には、結果の公表についての記載がございまして、結果が取りまとめ次第、広報等で皆様方にお知らせをしていく予定としてございます。

(5) には、今後のスケジュールについて記載をしておるところでございます。

後ろのほうに別添といたしまして、現在の経過でございまして、調査票についてつけてございます。これは、一度原案をつくりまして庁内で検討したほか、市民検討委員会でも一度もんでもらっているところでございます。それを修正したものを、現在、2度目の庁内照会、それから市民検討委員会での意見聴取を行っている段階でございまして。追ってその経過取りまとめ次第、6月下旬ころの発送を目途に、現在、作業を進めてございます。その後、7月に回収をいたしまして、集計等を経まして、9月下旬あたりの公表を目指して作業を進めてまいりたいというふうに考えてございます。

以上、アンケートの実施方針についてのご説明をいたしました。この実施につきましては、ご理解を賜りますようお願いいたします。

続いて、2ページ目の2に入ります。

関係委託事業の進捗状況に関する報告でございまして。

(1) 番の宮古市中心市街地拠点施設建設基本設計業務委託でございまして、先日プロポーザルの第2次選考を実施してございます。公開ヒアリングを実施いたしまして約23名程度の傍聴をいただいているところでございます。ヒアリングの後には、早速、委員会を開催いたしました。その審査において最優秀の提案者、株式会社久米設計東北支社と決してございます。それから、次席を株式会社梓設計東北事務所と決定をしておるところでございます。その経過については既にホームページ等で公表しているところでございます。ちなみに、株式会社久米設計については、市内の実績で申し上げますと、市民文化会館の新築時の設計に携わった実績があるほか、庁舎等の実績で全国の実績を多数持つ会社でございまして。見積額は7,992万円ほどということとされておりますので、現在、契約手続を進めている最中でございます。

それから(2)番でございまして。前回の全協でもご説明をいたしました事項でございまして、基本設計作業と並行して進める施設建設管理支援業務委託についての説明でございまして。前回の全協においては、アドバイザー業務という名称でご説明をいたしました。名称がわかりにくいとのご指摘も頂戴いたしましたので、名称のほうを建設管理支援業務というふうに変更してございます。基本設計の検証であるとか発注者支援を主な内容としている業務でございまして、受託者の選定に当たってはプロポーザル方式ということを採用して、現在、参加表明の手続中でございます。7月中の契約を目指しているところでございます。

そのほか、3ページ目には、各種事業のスケジュール等を記載しているところでございますので、繰り返しますが、再度ご確認をいただきたいというふうに思います。

それで、基本設計の進捗に伴いまして、各部署へのヒアリングとか、それから整備検討委員会も適宜開催してまいります。議場ほか諸室のあり方についても、議会事務局を通してご紹介をさせていただくこともあろうかと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それから、巻末には参考資料として、先ほど申し上げましたアンケート調査票の現在の案、それからカラー刷りになってございますが、久米設計のプロポーザルの技術提案書を添付してございます。

技術提案書につきましては、本日特に内容の説明はいたしません、あくまでも設計における基本的な考え

方を示した技術提案ということになります。ですので、建物形状等はこのとおりにするとは限らないものということが主でご留意をいただきたいと思います。市が提出課題として挙げた課題への提案内容ということでご理解をいただきたいと思います。

提案の1ページ目が、課題といたしましては防災に関することの提案が1ページ目でございます。それから2ページ目が、施設のにぎわいや地域の活力創出に関することという課題でございます。それから3枚目が、本庁舎に関することという課題でございます。4ページ目が、施設の維持管理に関することという課題に対する提案内容ということですので、参考までにご案内をいたしました。

私からは以上でございます。

○議長（前川昌登君） 説明が終わりました。この件について何かご質問があれば、挙手願います。

北村議員。

○10番（北村 進君） アンケートなんですが、先ほど説明の中にもありましたけれども、去年行われた1回目のアンケートが、回収率がたったの4%で進んでいるわけなんですが、今回もアンケートをする想定では回収率4割と考えているようなんですが、回収率を上げる手だてはどのようにお考えなのでしょう。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 前回、昨年のアンケートについては広報折り込みということで、無記名という形で皆さんのところにお送りをさせていただいたものでございます。今回は、抽出した後に郵送でお送りしたいと思っております。個別郵送を考えてございますので、前回の回収率よりはかなり上がるものというふうに認識してございます。

○議長（前川昌登君） 北村議員。

○10番（北村 進君） この回収率40%は、統計学上、市民の声と捉えることができる率ということでよろしいのでしょうか。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） そのように考えているところでございます。

○議長（前川昌登君） 長門議員。

○18番（長門孝則君） 今回の回収率の件ですけれども、やはり想定では40%を見込んでいますけれども、市長が市民に対してアンケートをやるわけですので、少なくともやはり50%以上を目標にしてほしいなと、そういうふうに思います。やはり回収率を上げる努力をしてもらわないと、もう来ても、アンケートがもう40だから、30だからそうするのではなくて、やはり回収率は上げる努力をしてほしいなと、そういうふうに思います。やはり希望とすれば60%台ぐらいの回収率が欲しいなと、そういうふうに思っていますので、そういった努力をぜひお願いしたいと、そういうふうに思います。

それから、こまいことですが、アンケートで設問の3の4、ページ数が入っていませんで、「あなたは、現在どのような交通手段で本庁を訪れますか」とそういう質問ですが、そしてその次に、設問の3の5、「宮古駅南側に地域防災拠点施設が整備された場合、あなたはどのような交通手段で訪れますか」、これは前段の質問に対して同じ質問なんですけれども、私、3の4は現在の本庁舎を訪れることを聞いて、それから3の5は新しい庁舎ができた場合はどうですかということを聞いていると思うので、地域防災拠点施設でなくて、本庁舎が整備された場合はどうですかというふうに聞いたほうがいいのではないかなと。そうでなければ、本庁舎（地域防災拠点施設）というふうにしないと、ちょっと一見した場合に意味がちょっとわからないというか、本庁舎と

防災施設、これは確かに一体だろうとは思いますが、質問の仕方として、そうしたほうがいいのではないかと。ちょっとこう一見した場合に、そういうふうに思いました。これは検討してほしいなと、そういうふうに思います。

それから、今、駅の南側が本庁舎、そういう防災施設、保健センター、これを設置するということで進めているわけですが、どうですかね、場所の選定について、アンケート聞いてみる必要があるのではないかなと、そういう気もするんですよ。駅の南側が本当にそういう公共施設の適地なのかどうかと、そういうことをやはり市民の皆さんに、実際にできた場合、庁舎を利用するのは市民ですので、やはり利用者の意向を聞いておく必要もあるのではないかなと。そういう気がしていますので、ちょっと今ごろ聞くのもどうかなという気もしますが、その辺も、せっかくアンケートをやるわけですので、市民の意向をやはり把握しておく必要があるのではないかなと、そういう気もしていますけれども、その辺はどういうふうにお考えになりますか。ちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 3点ほどご指摘をいただいたものだと思いますが、まず1点目のアンケートの回収率に関してなんですけれども、数の例示として40%というのを挙げさせていただいたわけですが、40%を目指しているわけではなくて、より高い回収率は目指そうというふうに考えてございます。ですので、アンケートのお願いと一緒に、事業の概要版とか事業を説明する資料もあわせて郵送したいというふうに考えてございます。昨年のアンケート実施の段階から、市民説明会もやってまいりましたし、いろんな広報等、市民検討委員会もやってまいりました。ワークショップもやってまいりました。議会でもご議論いただいております。いろんな広報を重ねてきておりますので、前回よりは関心度は上がっているものだというふうに、我々は考えてございます。

それから2点目の、質問内容3の4と3の5の内容なんですが、現在はこちらのほうに庁舎しかないので、3の4では「本庁舎」という聞き方をさせていただいてございます。それから、3の5では、新しい拠点施設のことを申し上げているので、市の庁舎のほか、その市民交流施設みたいなものができたときにどういう手段で訪れますかという意味で、「本庁舎」と「地域防災拠点施設」というふうに言い分けているところでございますが、ちょっとご指摘を踏まえまして、また内部で表現方法についてはちょっと検討させていただきたいと思います。

それから3点目、駅の南側、そもそもその場所について問うべきではないかというようなご質問、ご指摘だったんですけれども、昨年来、さまざま市民説明会とか皆様に、その場所についても明示しながらご説明をしております。それから、具体的に申し上げますとJR等地権者との交渉も重ねて現在まで至ってございます。それから、都市計画決定もあの位置でさせていただいておりますので、現在のところ、この駅の南側の用地を中心に考えているところでございます。

○議長（前川昌登君） 落合議員。

○20番（落合久三君） 1つは、市民アンケートの件です。

今、この案を先ほどから見ているんですが、今、長門議員もお尋ね、直接ではなかったですが、この市民アンケートの設問なんですが、私はもっとストレートに、出だしが「あなたはこの事業の計画を知っておりますか」ということから始めているんですが、冒頭に、あの場所にこの事業をやることについて賛成か反対かということをやはりちゃんと聞くべきだと、私はそう思いますよ。どうしてかという、この案件は、多数議決案件です。議会においては3分の2以上でないといけないです。その意味で、自治基本条例の精神からいっても、本来的に

いけば百年に一度の大計にかかわるような事業だと思いますので、住民投票にかけるとのことだって、これは十分そういう性質のものだというふうに、私は今でも、もう遅いとかそういうことじゃなくて、やるのであればこのアンケートの設問に、この事業、この場所にこういう施設を集約することをあなたは賛成ですか、反対ですかからか途中かは別にして、入れるべきだと思いますが、再考の余地はないですか。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 多分、落合議員ご指摘の質問は、3の1のところかと思うんですけども、3の1で事業についての賛否を問うているところではないので、そもそもその関心度とか認知度がどのくらいあるのかを知りたいような質問内容でございます。そもそもこのアンケートの前に、場所なり事業についての賛否を問うという考えは、このアンケートでは想定してございません。

○議長（前川昌登君） 落合議員。

○20番（落合久三君） 今、長門議員にも別の問題で似たようなことを言ったんですが、それでは、ちょっと角度を変えて聞きますが、このJRの用地を買収してここに集積するというのは、確かに図面上で示されて、そしてその後経過があったように全協等で説明あったのは知っておるんですが、これは私の受けとめね、正直な。2月でしたか3月でしたか、ちょっと議会であったような気がするんですが、末広町の振興組合主催の説明会が、夜、すえひろ亭であった時、私も同僚議員も五、六人行ったんですが、あそこのJRのところに落ちつくまでに、いろいろな候補地があったが、最終的には3カ所に絞られて、さらに検討を加えた結果ここに落ちついていくという説明を、多田課長は言っていたんですが、私は正直初めて聞きました、あの時に。同僚議員もほとんどそうだと思いますよ。つまり、なぜJRなのかという説明が、私はほとんど議会では、要するに3つの案に絞られてそれを比較検討した上で、こういう点でメリット、デメリットがあるので最終的にはJR用地のところに落ちついたというのは、ほとんど説明を受けていないので、いや、そうでないというのであれば、どこの場面で説明されたのかというのを、何ぼ思い出しても私は記憶にないので、それであえて、1番目のアンケートについてはそういう設問も率直に入れるべきでないかというのは、そういう含みを持って聞いているんですが。ちょっと重複するのであれですが、あそこに最終的に絞ったという経過については、どういうふうに議会には説明をしたというふうに理解されているんでしょうか。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 私のほうの認識といたしましては、24年の復興まちづくり計画をお出した際には、津波復興拠点整備事業を導入しますということだけで、場所の特定はしていなかったと思います。その後、24年の秋口だったと思いますけれども、JRに対して委託事業をお願いいたしました。JRの遊休地が買収可能かどうかを調査してくださいという内容をお出する際に、議会に対しても、その事業の内容、委託事業の内容についてはご説明を差し上げていると。ですから、多分、最初に用地を特定してご説明を差し上げたのは、24年の秋口ではないかというふうに考えてございます。

○議長（前川昌登君） 落合議員。

○20番（落合久三君） 長く説明しなくてもいいですが、3カ所に絞って、最終的にJRに落ちついたという経過は、端的に言ってどういう意味、どういうことだったんでしょうか。その3カ所も、この際ですから、誰も聞いていないと思いますので、率直に教えてください。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） ご指摘の、その末広町振興組合に呼ばれたときにご説明した内容の繰り返しにな

りますが、拠点事業を導入するに当たって、市内での適地を調べました。当時、コンサルさんのご協力をいただきながら3カ所をもくろんで選定をいたしました。その3カ所というのが、1カ所目は、現在の五月町の消防署付近でございます。それからもう1カ所が、宮町の今の出会い橋から西側といたらいいでしょうか、小百合幼稚園の付近でございます。それから3カ所目が、出会い橋の東側の現在の計画地、JR用地の3カ所を選定したというところでございます。その3カ所の中から、道路づきのよさはどうとか、それから用地買収の可能性はどうとか、移転補償費の経済性はどうとか、それらを比較検討いたしまして、現在の計画地を選定させていただいたという経緯だと思います。

○議長（前川昌登君） 落合議員。

○20番（落合久三君） それからもう一つ、このプロポーザルの、公開のヒアリングだったので、私も傍聴をずっとさせていただきましたが、もちろん、これはまだ最終決定ではありませんよということを前提にお聞きしますが、市の仕様書でこのことをきちっと触れているために書いたと思うんですが、このカラー刷りの1ページの下の方、これは0.2敷地内を冠水させないという、あそこはアイオン台風で浸水した場所に集積するということでこれをどうするかという、これは先ほど言ったコンサル会社がヒアリングのときに示したやつですが、ここには「施設周囲を1.8mかさ上げして、敷地が浸水しない計画とします」というふうに書いてあるんですが、これが、市とすれば、これも含めてプロポーザルを受けた中でよりベターということで採用になったと思うんですが、これを額面どおりにするかどうかもこれからだとは思いますが、ある程度の盛り土を1.8mといったら、かなり1階の天井ぐらいに近くに相当、そこまではいかないか、いずれ相当な盛り土をすることになりますよね。そしてそういうふうな盛り土をして、仮に大雨が降ったりしたときに、そこから流れ出る水で隣地に影響がないのかどうかというのは、素人が考えても非常に心配な点ですが、市のほうは、ここの1ページのコンサル会社の表現では「施設周辺を」というふうに書いていますが、ここは全体は1.6haに整備するという、全体の面積はね、市のほうでは、この盛り土をするのはそのうちの程度のことを考えているのか、また今、私が言った少し大雨が降ったときにはどういうふうな対策を考えているのかという点はどうでしょう。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） まず、基本計画の中で、浸水の深さについては記載をさせていただきました。それも議会の場でも賛否両論あったところでございますが、アイオン台風の履歴を見ると、現在の計画地では約1.5m程度の浸水が予想されますという課題として挙げてございます。それに関して提案を我々は期待したところでございましたが、議員も多分傍聴されていたかと思いますが、各社、盛り土というような提案をしてきてございます。盛り土の高さはさまざまでしたけれども、盛り土という提案をしてきているところでございます。私のほうとしては、盛り土も含めた提案を期待していたところでございますけれども、盛り土しかちょっと提案がなかったのも、ちょっと私としては残念だったなというふうに考えてございます。

というのは、議員ご指摘のとおり、じゃ、そこに盛り土をすれば全部解決するのかというような問題ではないというふうに認識をさせていただきます。ですから、盛り土をすることで周辺住宅地への浸水の状況がどうかとか、それから、あそこに盛り土をすることで、今度は線路自体が下がるんじゃないかという懸念が当然あると思います。ですから、それらは今後、設計事業者と協議をしていかなければならないというふうに考えてございますので、この技術提案書にある1.5mの盛り土を、こちらとしては了承したものではないです。

○議長（前川昌登君） 落合議員。

○20番（落合久三君） 最後。この自由通路、私もその限りにおいては、コンサル会社の皆さんが説明した、な

かなかこう、何といいますか、創意性のある図面をよく考えてやっているんだというのは十分伝わってきました。それはそれとしてそういうふうに見たんですが、このにぎわいを創出するということもあそこに持っていくからには、どういうふう to それをつくり出すかというのは大きなテーマになっているというふうに思うんですが、この問題は、自由通路をつかって末広町方面、中心市街地のほうににぎわいをどうやって波及効果させていくかという点で、正直言って、今でも末広町商店街の皆さんは、この事業については必ずしも、ああ、いいことだ、というふうにはなっていない。というふうに、じかに会って聞いてもそういうふう to 受けとめるんですが、違うなら違うでいいんですが、やはりそここのところをどういうふう to 基本的に解決しようとするのかという点は、現時点では関係者の、とりわけ末広町振興組合の皆さんのご意見は十分聞いていると思いますので、どういうふうな点を留意しているのかという点はどうでしょう。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） そこにB社、D社ということで、落合議員さんもヒアリングに来られていたというふうに思います。B社とD社の一番の大きな違いは何かというと、一席になったこのB社のデザインというのは、南北軸というものを非常に重視してすっきりした形になっている。これが何をもたらすかということ、要するに、市役所とか交流施設とかに寄らなくても、例えば宮高生とか一中生が駅から単純に自由通路を使って南町のほうに抜ける、そういうふうな to にぎわいが出る、そういった通路的なものとしてのこのB社のデザインというのは一番しっかりしているということで、委員会の中では一番そこら辺が大きな理由としてB社を選定したというところでございます。したがって、B社の案の中にはいろいろなにぎわいの提案もございます。ですからそこら辺を今後、市民検討委員会の中で、基本設計をある程度つくっていきながら、余りそこら辺に、逆にいう to にぎわいの拠点をつくられても、それが商店街にむしろかえって波及をしない、ただ単に通行するという程度に、プラスアルファ程度の機能でいいのではないかと、もしそういうご意見があれば、それはその方向で基本設計のほうも変えていくと。冒頭、多田課長も言っているとおり、あくまでこれはB社を選ぶために、B社さんというのがどういう考え方をしているのかということを知るために出してもらったものですので、多田課長も再三説明しているとおり、これはそのとおりにとはならないし、逆にこのB社の提案というのが、市民検討委員会とか市民のご意見を反映しやすい提案でもあるということも一つの選定理由になっているということでご理解をいただければと思います。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○2番（松本尚美君） このアンケートの部分なんですけれども、まず最初にアンケートなんですが、この市庁舎のあり方といいますか、関連する部分についてはアンケートはもう必要ないんだという前提で、今回実施するということですね。まず、それを確認します。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 先ほど来、長門議員さん、落合議員さんも言っていますが、議案を出すのであれば、当然これはこういう設計業務とかとは別に、庁舎の位置を、会議上ではいずれ出さなければいけないというふうに当然、市の当局としては考えております。それにつきましては、まだ建設工事の予算そのものは担保されていないわけでございますので、その予算と同時に出さなければいけない、その市庁舎の位置を変える条例というのは、落合議員おっしゃるとおり、議会の3分の2の特別多数決が必要だということも理解しております。ただ、アンケートそのものは事業の賛否を問うということではなく、あくまで冒頭ご説明したとおり、基本設計業務に生かしていくためのアンケートということですので、冒頭からいい、悪いというような問い方は、今

回のアンケートがもしこれが最後でなく、議会のほうでそういう形の最終決断をする場合にもアンケートが必要だということであれば、それはアンケートはこういう形にはならないアンケートになるだろうというふうに思っております。そこはまた今後の議論になっていくのかなと。

今回はあくまで、基本設計業務に市民の考え、施設の使い方、施設への来方、こういったものを問いかけて市民要望に沿った形で建物設計を生かしていきたいということでやるアンケートだというふうにご理解をいただきたいと思います。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） そのとおりだとは思いますが、ただ、何といえますか、私個人だけなのかどうか分かりませんが、何かこう外堀を埋められて、もう、つくると、建設をする、これはもう既定路線だという、何かこう外堀を埋められてきて、このままでいいのかなという感じを持っているんですよ、正直。部長がおっしゃるように、一つ一つ予算が必要なものは予算をとって進めてきて、これは外堀。もう埋められてしまって、これからまたこの市庁舎を含めてですよ、財源もどうなるのか、これでいいのか悪いのかって、もう戻れない状況に残念ながら来てしまったのではないのかな。私は、そんな100人も200人も市民の方々からこの市庁舎の移転について意見を聞いてはおりませんけれども、本当に数人という範囲の中では、つくるのはいいんじゃないですかということなんです。この図面もちょっと見せて、この提案をですね、見せて、いいんじゃないですか、こういうのがあれば宮古もよくなるんじゃないですかという感想なんです。ただ、我々はプラスアルファで考えなければいけないのは、まずこの庁舎を建設することによって当然、合併特例債を含めて今年度の負担、これは財政ということですね、ここにすぎ込んだお金に見合うお金は、当然、将来別な目的で使えないということになるわけですね。だから、そこをトータル的にどう判断するかということ、やはりアンケートの中でも私はやはり言って、設問というか、そこをやはり入れるべきじゃないのかなと。庁舎だけでも五十数億かかるわけですよ、建物にね。これは合併特例債使いますという話。しかも合併特例債の当初押さえていた額を目いっぱい使うと。そういう判断を今して、今この計画を進めようとしている。その影響が将来どう出るんだろう、そこが心配なんです。

この跡地の利用についてもそうですよね。今からですという話。じゃ、何かまとまって事業をやる、ここですよ、決まった事業をやっていくと。じゃ、幾らここに投資できるのか。そこも見えない中でトータルとして進んでいってしまうということが心配なんです。これ、どうですか。私は意見として今聞いていることは間違いですか。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 松本議員がおっしゃるのも、まあ何となく理解はできます。ただ、我々もじゃ、ここまで全く議会と相談せずにやってきたかといえば、例えば、拠点の都市計画決定も議会にも説明させていただきました。これは合併特例債を使わせていただくことについても、3月議会で新市建設計画、新市基本計画の変更、財政計画も示して説明はしてきております。ただ、確かに、1件不足があるとすれば、この、もし移った場合にここをどうするかというのはまだ結論というか、そこは見えていないというのは事実でございます。

したがって、そこら辺を若い世代の皆さんのワークショップで今まとめていただいておりますので、基本設計が固まる段階で同様に、いずれ移るとしたときの跡地の活用、その他の考えもトータルで示し、復興交付金もこれだけとれましたと、全体が最終的にこうなりますということの、それが9月になるのか、9月段階では予備的にやって12月になるのか、今のところまだはっきりとスケジュールを言えないところではございますけ

れども、そこは全てそろった時点で議会の皆さんにはご判断をいただけるように努力はしながら進めていっているという状況でございます。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） 私が外堀を埋められているというのは、結局そうやって進んでいくと、これは反対できない。そういう環境に今時点でもないんですけれども。ただ、こまいというか、ポイント、ポイントだけでどうなのかと聞くだけの話になっちゃっているんですよ。だから、全体が見えた中で、じゃ、右か左かといったときに、判断できる環境ではなくて、一つ一つ、またそれはまだ決まっていないとか、これは進めたい、これは決まっていけないけど進めたいという流れの中で来ているわけです。そういう印象を私は持っているし、実態はそうなんじゃないのかなと。

さっき、課長は1つだけという話ですが、この跡地をどうするのか、こうやって決まっていけない、本当は、私はセットだと思う。財源的には、含めてですよ。事業費幾らかかるのか。これはセットで判断して、じゃ、どちらかオーバーする、対応できないとすれば、どういった施設の規模にするのかとか、機能なんかも含めてですよ、そういった議論をして、そして検討して進めるなら進めるという判断をしなきゃならないのに、全体も見えない中で一つ一つこうやってきているというのはちょっと、それで何か、さっきは都市計画決定もした、それも相談して皆さんの同意ももらった、何もなかったって、こういうのでは本当に大丈夫なのかなという思いを、私は持っているんです。

このアンケートの中にある市民交流センター、こういったイメージを出されてどうですかと言われたら、だめだって言う人は、私は限りなくゼロだと思いますよ。でも、トータルとしてこういった施設を併設してつくるのが、宮古の地域創生なり、今、人口減少で困っている、これを何とかしたいという、そういったものにプラスになっていくのかどうか。以前にも言いました。宮古市は、これとはちょっと違うのかもかもしれませんが、公民館どうするのということですね。そこの議論もないまま、どうするんだということです。今、空き校舎を含めて公共施設の再配置のことも今、課題としてあるわけですよ。じゃ、こういった公共施設の場所によっては学校等を、じゃ、別な目的で使うとか、個々の施設、考えてこれイメージとして書いてありますが、結構何かポイントで決まっているようなものを挙げているんですね。だから、これはもうコンクリートでどんどんなってしまう。コンクリートにするためのアンケート、外堀を埋めるためのアンケート、そういう印象がどうしても私の頭から離れない。申しわけないんですが、この市民交流、イメージと書いてこれやって、丸とかつけることになっているけれども、これ、やりたいと思っているのはどういうことなんですか、イメージデザイン。公民館との関連で一体どうなるの。再配置との関連でどうなんですか。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 松本議員には、公共施設の再配置の計画とあわせて、再三質問いただいております。

簡単に言いますと、中心市街地エリアにある公共施設、中央公民館、公民館分館、もともと税務署です、勤労青少年ホーム、それから男女共生推進センター、大分建設年次は古いものがあります。いずれ、公共施設再配置の実施計画の中では、今後10年間で早急にすべき建物の中には、今言った部分は必ず入ってくると。なかなか今の時点で明確に言い切れないところもあって、ちょっと私たちもつらいところではあるんですけれども、方向性とすれば、そこら辺の、駅南の拠点につくった施設の利用状況を見ながら、古いものは順次用途を廃止というか、あるいは地区集会施設とかそういったものに落としていく、そういうことで整合性をとってこうという考えはございます。

したがいまして、今回、補正予算で提案しました例えば消防団の屯所にも、田老地区では1階、2階という形ではなくて平面で、屯所部分と集会所を合築にした形で共用部分を設けて、棟数的には2が1になる、そういうふうな方向というのは庁内の中でも考え方がこのごろ出てきているというところでございます。ただ、今時点で、じゃ、中央公民館あるいは分館を直ちにどうするかというふうにはなかなか判断はしづらいというところがあります。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） 中央公民館との関連、また施設のイメージの中で、私が知る限りでは音楽スタジオなんかも入っている感じですね。カフェなんかも入ってくるかもしれないし、こういうイメージとして書いている部分の、この中ではどれが今、計画の中に盛り込まれているんですか。イメージで示して。防災展示学習室から貸室、研修会議室とありますが。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 現在の基本計画の中で示させていただいた案を、現在、アンケートのほうに落とし込んでございますので、実現可能か不可能かはこれから判断いたしますけれども、現在の計画ではこの載っているものを計画しているところでございます。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） そうですね。私もそう思っているんで、これ、出しているんだと思うんです。こういったものをリストアップして、イメージというか全体としてアンケート含めて検討会等の意見も含めてつくってきたんだと思うんですが、何かこう、セクション、本当にそれでいいのかなという思いがするんですよね。要するに、特定の思いを持っている人、だからアンケートをとって確認をしたいという意味だろうとは思いますが、じゃ、その検討会のメンバーに入ってきていないグループなりそういったジャンルの人たちの意見はじゃ、どうするのという話ですね。何だこれ、これでいいのかという感じがする施設名が幾つかあると思うんですね。

だから、これから課長はまだどうなるかわからないという話でしたが、やはりこの負担も含めて、コスト、それから利用という問題があるのかもしれないかもしれませんが、やはり特殊な施設になってくると、当然、限られた方々の利用になってしまうということになりますので、ですから、そういったことをやはりしっかりと議論するというか検討する場をやはりつくる必要があると思うんですが、そこはどうでしょうか。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） ベースになってございますのは、現在の中央公民館ですとか分館ですとか山口公民館、それから民間の音楽スタジオとかいろんな施設の利用者にインタビューをとってございます。ある程度のニーズというのはそこで聞き取りをさせていただいてございます。あとは、平成20年ころだったと記憶してございますが、生涯学習施設の状況調査という調査を教育委員会のほうでまとめてございますが、その当時も中央公民館それから分館の利用者のニーズというのはある程度まとめているところがございますので、そういうデータをもとにうちのほうで案をつくらせていただいたのがこの案ということになります。特定の利用者におもねっているというつもりは毛頭ございませんで、現在の市内にある施設となるべく重複をしなくて、不足をしている施設を盛り込んでいけばどういう形になろうかなということで計画しているという案でございます。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） ほかの方もいらっしゃるので、きょうは最後にしたいと思うんですが、まずこういった

施設を市民交流センター、要するに市庁舎、防災機能施設と同居させることによって、地域創生という観点で考えたときに、そういった施設をつくるのが宮古市の人口減少にも歯どめがかかる、地域創生につながっていくということも、前段言いましたけれどもやはり大事なポイントなんです。これは財政から考えてですよ、お金、事業費ですね。ですからそういった意味ではここの跡地もそうですし、そういった部分をしっかりとポイントを外さないようにしないと、市庁舎、あそこの拠点施設がびかびかっている、ほかは民間は全部ずたずたになる、そういう状況になってはいけないと思うんです。かつて、出崎埠頭にランドマークという表現で、宮古を代表するような、シンボルになるような建物を建てたいという某市長もいましたけれども、市庁舎だけが目立って地域が衰退する、この明暗、これはないようにしなければならない。そこも私はやはり大きな課題だと。それは財政的にもそうだということです。どうですか、部長。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） そこは松本議員がおっしゃるとおりだと思います。決してランドマーク的なものをつくろうということでやっているわけではございません。基本的には、地方創生の部分の中で、あそこの庁舎の果たす役割というのもあると思いますし、ここの跡地になる部分をどういうふうに使っていくかというののもまた地方創生の1つのあり方だろうというふうには思います。そこら辺は、観点としてそういう地方創生とか人口減、そういった部分は十分留意しながら、この事業も進めていかなければならないというのは十分意識しているつもりでございます。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） 先ほど、市のほうからは議会のほうに、私なりの理解ですよ、一つの問いかけがあったなという理解であります。

1つは、こういう内容の市民アンケートを実施するかしないか、議会のほうの対応いかんによっては、中止しなさいというのであれば、それもあり得る、あるいは一つ一つの項目について、松本議員からは庁舎分に関してはいらないんじゃないかということがありました。それも十分考慮しますというふうなお話だったんですが、これはどうですか、工程表を見ますと6月下旬に実施ですよ。もう6月の、今、3日です。これからアンケート票を刷って、回して、無作為云々かんぬんしますと、議会のほうの対応ですよ。これから中心市街地の推進のための住民参加の手段として、一つの方法として市民アンケートを行う、これについてのいわば議会側の回答、きょうこの全協でいただきたいということなのか、それとも一定程度期間的に余裕があるのか、そこから伺います。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 私の説明が悪かったのかもしれませんが、実施について問うているものではございません。予算もご承認いただいているので、やることについて、その内容についてご報告を申し上げたという趣旨でございます。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） 山崎部長が先ほど松本議員の質疑に対してそういうふうにお話しなさったという記憶があるので、私はあえて引用させていただいたわけでありまして。多田課長が言うように、確かに項目予算については議決していますので、やることは前提でやっていますよと、しかし、予算計上してもですよ、執行しなかったってあり得るわけでしょう。それはやはり事業の必要性を判断をして、もう予算とったからやらなければならないというものではない、私はそのように思います。

そこで、私の答えに対しての回答がないので再度伺いますが、設問項目、つまり設問事項を含めてですよ、これでいいかどうか、そのことに対する議会側の回答、今この場なんですか、それとも数日間の余裕があるかないかということを伺ったんですが、それについてのお答えがないので、もう一度伺います。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 実施するかどうかというお問い合わせでいらっしゃると思います。実施することについて賛否を問うているのですか。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） じゃ、部長のお答えが私の質問の出発点になっております。部長は、先ほど、松本議員の質問の中で、このアンケートを実施するかしないかも含めて、あるいはまた設問事項を含めて、議会のほうへの、いわば判断を尊重しますという意味の発言をしたんですよ。違いますか。首かしげていますけれども。違うのであれば、そこはちょっと重大なこちらのほうの事実誤認ということになりますので、そこを聞いていますよ。ですから、アンケートを仮にするにしても、設問項目が果たしてこれでふさわしいかどうかと出ています、意見が。それに対する当局が対応する余裕があるのか、ないのかということを知っているんですよ。それに対する答えが全然ないですから。する、しないはさておいて、私の聞きたいところは、する、しないも含めて、仮にするしかない選択肢のもとでも、だったら設問事項については議会のほうからの意見を踏まえて、その余裕があるんですか、ないんですかということを知っているんです。明確にお答えいただきたい。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 私はアンケートそのものを議会のほうの判断にということは一言も言っておりません。落合議員の質問に対して、そういう設問を入れるとこれはアンケートではなくなるのではないのでしょうかというふうな話はさせていただいた部分はございます。したがって……

〔「明確に答弁してください。私が聞いているのはそこじゃない」と呼ぶ者あり〕

○企画部長（山崎政典君） このアンケートは、内容を説明した上で、実施させていただきたいというふうに考えております。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） 国会のやりとりがちょっとそういうふうな部分なんです、それはさておいて、私が聞いているのは全員協議会です。アンケートを実施します、この内容でよろしいんでしょうか、私はそのための全協だと思っていますよ。それに対してはいろいろ出ました、意見が。だけど、当局は、これがベストなんです、これでやります、そういうことなんですかということを確認しているわけですよ。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 再三ご指摘いただいている、こちらが検討しなくちゃならない事項があるのかと思います。最初に冒頭、長門議員からもご指摘いただいた文言の整理とかそういうものは改善の余地があるのかというふうに考えております。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） 二元代表制のあり方として、市から提案がなされる、いわゆる県議会がいい例ですよ、増田知事はどうぞ否決してください、つまり議会というものの判断を踏まえて、次にじゃどういう妥協点が出てくるか、これが政治でしょうよ。もう議会は認めるしかないんだというのであれば、それはもう議会制民主主

義の否定につながるんですよ。そういう意味で私は、きょうの全協、あとは議会内部の議論になると思うんですけども、議会の中でこれでいいとなれば、皆さんが期待する方向に行っちゃうだけの話なんですよ。その日程的な余裕があるかないかということを、私は聞いているんですよ。なかなかそこに対する答えがないから、何回も繰り返しています。もう一度、明確に。

例えば、きょう全協この場で答えを出してくださいというのであれば、きょうの夜の12時までかかって、場合によったらやらなければならないということなんですよ。議長、そうでしょう。受けとめ方としたら。我々の議会の議論というのは、もう少しやはりそういうふうな意味で権威と重みを持たなければだめですよ。そうじゃなかったらやる必要ないんです。時間の無駄です。我々議員の発言は。だから聞いているんです。その余裕があるんですか、ないんですかということを。一向にお答えになりません。まあいいでしょう。それは、私は不満ですが、私の質問はそこではありません。先ほど、多田課長がこうおっしゃいました。市民アンケートの目的ですけども、このアンケート結果を基本設計に反映させるというふうに理解するような説明をしました。もう一度確認しますが、このアンケート結果を踏まえて、予定ですと6月下旬から始まって8月下旬、9月にまとまる、つまりもう6月から9月の間はアンケート期間だ、しかも基本設計に市民の声を反映させる、こういう理解でいいのかしら、確認を求めます。アンケートする目的ですね。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） アンケートの趣旨というか目的については何点か申し上げましたが、その中の1点には、その基本設計の中に反映させるということも申し上げました。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） 基本設計には調査結果を反映させるというお答えでございました。何項目かある中で、その中のアンケートすることの目的はそういうことで確認をしました。そうすると、私、見たときに、非常に、この工程表にかなり窮屈だなというふうに見ていました。

そこで何うんですが、資料の事業スケジュール予定というのが、工程表が示されています。上のほうから基本設計、そして下のほうの大学等との協働事業まで含めて、この事業を推進するための工程表が示されています。非常に窮屈ですよ。つまり、実施設計・建設工事まで、年度内のスケジュールが示されているわけです。私、肝心なのは基本設計だろうと思っております。基本設計がどのようなものができるかできないかで、次の作業、実施設計が可能になる。そこで予算が固まる。そして入札になっていくというのが通例でありますけれども、これで見ますと、もう6月上旬から設計に入りますよ。5カ月間です。アンケートの時期を考慮しますと、75日しかないですよ。これね、そもそも工程表に無理があると私は思って見えています。それからもっと気になるのは、建設管理支援業務委託です。これももう7月中旬には契約手続に入りたい。アンケートしている最中にですよ。何を目的の事業か。設計マネジメント。発注契約支援業務。これが、基本設計ができないうちからこういう形で業務を行います。この期間は、工程は8カ月であります。私は少なくとも基本設計ができてから、必要性があるとすればですよ、この設計管理支援委託業務というものは出てくる、そういうものだろうと思っているんですが、ここが同時に進行して、しかもそれと並行裏に、基本設計に反映させるためのアンケートも行う。9月にならないと結論が出ない。無理じゃないですか、工程的に。どのように考えていますか。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 何点かご指摘をいただいたんだと思いますが、まずはアンケート調査との日程の件でございますが、アンケート調査9月公表というのは、最終的な公表結果というふうに考えてございますの

で、単純集計とか簡単な集計であれば7月の回収以降から作業に着手できようかというふうに考えてございます。ですので、ある程度の内容は基本設計のほうに反映できるのではないかというふうに現在考えております。

それから、建設管理支援業務委託が並行して動くのは効率的ではないのではないかというようなご指摘だと思ふんですけれども、これは基本設計の設計内容の成果、その時々に出てくる成果のチェックから作業が始まるものでございます。ですので、これは並行して走らせることに意味があるかと、我々は考えているところでございます。

〔何事か発言する者あり〕

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） そこでこれだけのスケジュール、確認しますけれども、これ復興交付金、ある意味大変表現の悪い、言葉の悪い表現をさせていただきますと、復興バブルですね。これにいわば歯どめをかけるというのが政府の狙いでもあるようでありますが、地方負担が打ち出されました。国のほうは、基幹事業は従来どおりやっていくと。効果促進事業、これについて一部負担を求めるんだ、つまりこれは何かといいますと、ブレーキをかける、あなた方の作業が本当に地域で必要とする事業なんですか、それも踏まえて、10年後、20年後の財政計画も見ながら具体化しなさいね。私はけしからんですけれども、国の打ち出した方向は、しかし反面、国の言い分にも一理あるなと思っております。したがって、この事業については、私は基幹事業ではないというふうに理解しているんですが、効果促進事業、したがって年度内の制約があるので、こういうスケジュールで何としても仕上げていかなければならない、そういうふうに私は勘ぐっているんですが、この事業が基幹事業か、効果促進事業か、端的に伺います。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 一部負担の考え方は議員ご指摘のとおりだと思いますが、現在進めている事業、現在は設計作業を中心に進めているところでございます。あとは、これに直接載ってはございませんが、用地取得とか移転補償はございますが、それは全て基幹事業でございます。ですので、方針が示された後でございますが、これに関する一部地方負担は出てこないかなというふうに考えてございます。一部、事業区域の外になりますけれども、国道部分に右折レーンを設けたりする事業は区域外になるので、あれらが効果促進事業というふうに今、分類しているところでございます。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） 私はそういうふうなことでいろいろ言いたいことはあるわけでありますが、一般質問でも取り上げる予定でありますので、これ以上の議論はほかの方もおりますので終わりにしたいと思います。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） 私は2点について伺いをしたいというふうに思っております。それは今日、資料にも、各議員に事前にわたっておりますプロポーザルの関係と、今後のプロポーザル踏まえて基本設計に入っていくわけですが、その考え方について少し伺いをしたいというふうに思います。

1つは、当座のプロポーザル、最終的には5社が残って、公開で行われたわけでありまして。私も最後の5社については、5社目についてはちょっと時間の問題があって聞きませんでしたが、いろいろ各業者の方々の提案内容は聞いています。そこで、公開プロポーザルの中ではお話し出なかったんですが、この業者提案、基本設計に入るに当たっては、この中心市街地の拠点施設のいわば事業費、建設費については幾らというふうに、当然、事前に提案をする業者のほうに示して多分いるんだろうなというふうに私は受けとめているわけですが、そのこの

あたりがちょっと公開ヒアリングの中では出てまいりませんでした。改めて、もし示しているとすれば、その技術提案を含めて幾らの範囲内、最大幾らということで提案をしている業者のほうに市のほうでは提示をしているかどうか、まずここを1点伺いをしたいと思います。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 既に3月に計画をさせていただきました基本計画書の中に、最大で112億を見込む、平米当たり50万程度を見込むということでお示しさせていただいておりますので、これをもとにそれぞれが企画提案されたものというふうに認識してございます。

それから、審査委員からの質疑の中でも想定どおりの予算内におさまるのかどうかという質問はあったはずでございますので、各社ともそれを念頭に置いて技術提案されているものというふうに認識してございます。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） そうすれば、今、多田課長のほうから総額事業費112億円というものが今のところ概算として議会のほうにも示され、住民の方々にもそういった説明がされているわけです。ただ、この中には、用地の取得あるいは造成等の費用も含まれておりますし、具体的な整備財源の中では復興交付金が30億6,000万、保健センターの整備費が災害復旧費として2億4,000万、合併特例債が本庁舎で50億4,000万、これで83億4,000万になるわけで、そのほかに自由通路が8億円。こうなるので、いわばプロポーザルのときは結構、自由通路の提案もさまざまございました。これらを含めて私の感じでは、90億近い金額になるのかなというふうに受けとめているのですが、そういう受けとめでいいというふうに理解をしてよろしいでしょうか。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 説明が足りませんでした。プロポーザルの特記仕様書の中で想定工事費として総額83.5億というのを示させていただいております。この中には、庁舎の規模を示して造成費と外構工事費を含むということで数字を出させていただいているところでございます。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） 了解をしました。そうすると、私どもに示されている112億、総額でいいまして、それよりはもう少し、業者のほうに示しているのは落とした形で示しているというふうに理解をいたしました。このことについては了解をいたしました。

そこで、2つ目の問題です。いわば今回の提案を受けて、一業者の方が最終、これから具体的な基本設計業務に委託を受けていくということになります。そうした場合に、このプロポーザルで示された内容がどう基本設計に生かされていくのかなということなわけですね。これは当然、きょうも議論になっておりますが、市民アンケート等、さまざま出された意見等も基本設計の中に反映をしていくという話もありましたし、当然、市民検討委員会の皆さんからも、これから具体的な形が見えてくれば、いろんな意見が当然出てくるのだと思うんです。もちろん、当然、財源には限りがありますから、当然この財源との絡みの問題もある。そういうことを考えていった場合に、さまざま、決まった業者の方々も含めていろんな、さまざまな提案がされていくわけがあります。ちょっと私も、だから具体的にプロポーザルの中で出されたものが、どうこれから市との協議も含めて具体的な提案が生かされていくんだろうか。ちょっと私、素人考えでいうとなかなか見えてこないなというふうに思っているところがあるわけです。当然、一定程度金額を示した上での提案ですから、当然、提案をしている側も、何といいますか、べらぼうに、非常に理想に近い形を出しているわけではないというふうに思うわけがあります。したがって、当然、基本設計を組むに当たって、市がどういう目線で、あるいはどういうふうなかか

わりを持って基本設計を進めていくかというのは、私、非常に大事な作業だろうというふうに思っているんですが、そこについてどういう、そのプロポーザルの提案を受けて基本設計に当たっていくという状況の中で、市としてはどういのかかわり方、考え方で進めていくのかということをお聞きをしたいというふうに思う。

というのは、この基本設計が終わると、今度は実施設計と工事が一括発注という形になるわけですね。したがって、ある意味では基本設計というのは非常に大事なものになっていく、基本設計から従来のような実施設計ではなくて、もう基本設計が終われば、実施設計と具体的な工事発注が一括でされていくという状況が市のほうから示されているわけでありますから、そういう意味では、次のステップに入るという意味では、かなり基本設計は大きな意味を持つてくるというふうに私は理解をいたしておりますので、そこら辺の今回の公募プロポーザルと基本設計に当たっての市の考え方を、一応お聞きをしておきたいというふうに思います。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 先ほど、多田課長のほうからも概算事業費は示し、こういう場に臨んでいただいたわけですが、これまでも宮古市の中では往々にしてそういう示し方をしながらも、事業費が過大になるといったケースがまま見受けられてきたと。今回その建設支援業務を入れるのも、そういったところのやはりチェックが必要だろうというところもございます。まず一番考えなければいけないのは、我々はコストだと。ただ、建設で触れた基本計画の中でも示しましたが、その上昇というのはどうしても我々は読み切れないところではあります。基本計画で示した金額をいわば上限としてその中からどれだけ落とせるかというのは、やはりコスト面ではそこを超えないように注意する必要があるだろうというふうに思っております。

それから、にぎわいの観点で言いますと、先ほど説明したとおりやはり南北軸を中心にしたほうが、いわゆる施設を使わない方の住民の利用、中学生、高校生の利用も考えられる、むしろそういった中からにぎわいが生まれるのではないかと、先ほど話もしましたが、それに加えて避難動線、住民の日常動線、そこら辺が便利に使って施設に来られるような、自由通路も含めてですね、考え方というのを大事にしなければいけないだろうと。

そして最終的には3番目の諸室の配置、行政棟もそうですし、交流センターもそうですが、避難時の対応も含めて、使い勝手のいい建物、庁舎、交流施設とこういったことになっていくのではないかなと。そこら辺の3点をポイントにしながら、業者との基本設計は進めていきたいというふうに考えております。

○議長（前川昌登君） ほかに。

須賀原議員。

○12番（須賀原チエ子君） アンケートについて幾つかお尋ねしたいんですけども、何度もこう、アンケートを行ったり来たりしながら見ているんですけども、ちょっと本当に何を知りたいのかなとか、今度せっかくの計画に対して、例えばこういうことを期待していますとか、私はそういうのを聞いたほうがいいんじゃないかなと思うんですけども、まず1つお尋ねしたいのが、大体このアンケートをもらった方が、何分ぐらいでこれを書くのを想定していますか。それぞれ個人差はあると思うんですけども、アンケートは大体5分か10分ぐらいで書けるものというふうによく言われるんですけども、やはりそれが面倒になればなるほど回答率が落ちるような気がするんですけども、その辺はいかがですか。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） 5分程度で回答可能とは思ってございません。解説書も入っていきますので、ちょっとお手数ですけどもいろんなこととお読みいただいた上でちょっとおつき合いいただくということにな

ろうかなというふうに考えてございます。

○議長（前川昌登君） 須賀原議員。

○12番（須賀原チエ子君） そうですね、この内容ですと。

あと、問いの2番なんですけれども、その利用状況についてお伺いしますとかつてあるんですけども、例えばこの部分を書いたときに、利用部分が多いところはちょっとでも、もしかしたらどういうふうに反映されるんだろうなと思うんですけども、例えばそういう、細かいことは余り聞きたくないんですけども、すごく質問等を答えたときの、それがどういうふうに反映されるんだろうなというのが見えてこないんですけども、その辺はいかがですか。

○議長（前川昌登君） 多田復興推進課長。

○復興推進課長（多田 康君） ご指摘の2の1のところかと思うんですけども、これは具体的にフロア配置とか、課の配置に反映させるべき事項かなというふうに考えてございます。基本的に今のところは部単位で係は集約しようというふうに考えてございますが、市民ニーズが高いものは、もしかしたら部を超えて1階フロアに配置するとか、集中して配置するとか、そういう工夫が必要になってこようかというふうに考えてございます。

○議長（前川昌登君） 須賀原議員。

○12番（須賀原チエ子君） わかりました。全体を見ながら、やはりもう少しわかりやすいように、確かに解説書を読みながら、みんな18歳以上なので、解説書を読みながらというのはわかるんですけども、もう少しわかりやすいほうが、回答率が上がると思います。

以上です。

○議長（前川昌登君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 質疑がないようですので、この件はこれで終わりたいと思います。

説明員は退席願います。

○

説明事項（2） その他

○議長（前川昌登君） 次に、その他ですけれども、白石議員から申し出がありますので、これを許可します。

白石議員。

○5番（白石雅一君） 申しわけありませんけれども、少しお時間のほういただきたいと思います。

お手元のほうに、ネパール大地震について1カ月たった今の現状の簡単な資料が配付になっていると思いますが、事前に前川議長と相談させていただきまして、恐縮ではございますが、ぜひ宮古市議会全員でネパール大地震に対する義援金募金を昨年の広島の土砂災害のときのように行いたいなと思いまして、今回、提案させていただきます。

もし、諸先輩方のご賛同をいただければ、昨年の広島のときのようにやっていければなと思っておりまして、ぜひご賛同のほど、よろしくお願いします。

以上です。

〔「了解」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） お諮りします。

皆さん方、白石議員のネパールへの義援金のことでございますが、ご賛同いただけますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） では、全員で義援金を出すということにしたいと思います。

菊地主査。

○事務局主査（菊地政幸君） 先ほどの義援金の件ですけれども、事前に白石議員のほうからこちらのほうにも相談をされておりまして、ただいまご賛同いただけるということで、6月分の報酬のほうから差し引くという形で行いたいと思います。

義援金につきましては、市の職員とか、あとは1階のほうの募金箱、あとは重茂漁協さんのほうとかでも取り組んでおられたということで、そちらの市の福祉課を通じて、日本ネパール協会のほうに送金するということでしたので、そちらに市議会分ということであわせて送金するという形で取り扱いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

〔「お願いします」と呼ぶ者あり〕

○事務局主査（菊地政幸君） 昨年の広島の場合は、議員1人5,000円で、正副議長が1万円ということで、そうするとトータル15万になります。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 15万の義援金だそうです。よろしくお願いいたします。

あと1件ございます。

上居事務局長。

○事務局長（上居勝弘君） それでは、私のほうから議員の皆さんに、56歳以上の議員の皆さんですが、日本年金機構宮古年金事務所から、例の地方公共団体の議会の議員に対する在職支給停止制度というのが今度始まりましますので、その関係で文書を差し上げております。今度の定例会会期末、6月19日ですが、19日までにそれを書いていただいて、事務局のほうへ提出いただきたいと思います。事務局のほうで一括して年金事務所のほうにお送りしますので、忘れないで、文書をもらった議員さんはそれを見て書いて事務局のほうへ提出いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。56歳以上でございますので、56歳以上は全員になります。文書棚に置いておりますので、帰りに見ていただきたいと思います。

〔「了解」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） ほかに。皆さんから何もございませんか。

どうぞ、次長。

○事務局次長（佐々木純子君） 前回の全協のときにもお願いしましたが、14日の10周年の出欠のほうを、まだの方はきょう中をお願いいたします。

以上です。

○議長（前川昌登君） まだの方はどうぞ提出してください。

〔発言する者多し〕

○事務局長（上居勝弘君） 10周年のやつは、出欠は総務課でやっています。うちのほうでは一切かわっていませんので、心当たりのある方は、お願いしたいと思います。

閉 会

○議長（前川昌登君） ほかになければ、これで全員協議会を終わります。
御苦労さまでした。

午後 2時25分 閉会

○

宮古市議会議長 前 川 昌 登